



街道から濃尾平野を望む 尾根筋の街道景観

せと 歴史と文化財を知る見学会 「春の信州飯田街道を歩く」

主催：瀬戸市・（公財）瀬戸市文化振興財団・郷土の歴史と文化を広める会

日時：令和 7 年 4 月 26 日（土）

見学コース： 午前 9 時 00 分 文化センター北駐車場出発

（予定時間） 9 時 30 分 信州飯田街道（雨沢峠）到着

11 時 30 分 信州飯田街道（坂瀬坂）（白岩口バス停）出発

12 時 00 分 文化センター北駐車場到着・解散

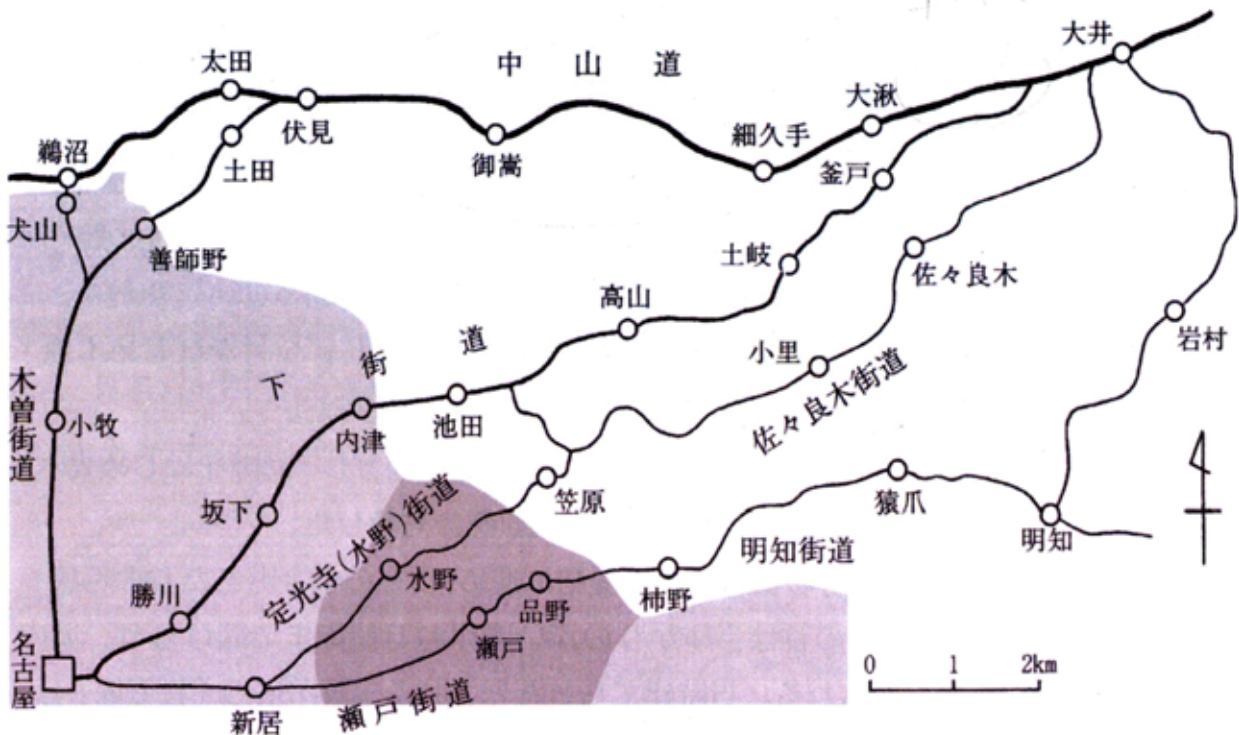
瀬戸市域の主な指定・登録文化財

やきもの生産
の変遷

今回見学する文化財とその関連年表

			3 万年前	後期旧石器（台形様石器・局部磨製石斧）の出土（上品野遺跡）
	古墳	5世紀		
本地大塚古墳（西本地町2丁目）		6世紀		
宮地古墳群（上之山町2丁目）	飛鳥	7世紀	須恵器	
	奈良	8世紀	8 世紀	木製馬形・斎串の出土（上品野遺跡）
		9世紀	灰釉陶器	9 世紀 「文室門」 墨書土器の出土（上品野蟹川遺跡）
広久手 30 号窯跡 木造十一面観音菩薩立像（下半田川町）県 木造阿弥陀如来立像（下半田川町）県	平安	10世紀		
		11世紀		
		12世紀	山茶碗	
古瀬戸瓶子（寺本町）	鎌倉	13世紀	1213 ～ 18（建保年間）	大金重高による品野城築城
陶製狛犬（深川町）国	南北朝	14世紀	古瀬戸	
瀬戸窯跡【小長曾窯跡】（東白坂町）国 永享年銘梵鐘 聖徳太子絵伝（塩草町）	室町	15世紀		1482（文明 14）品野の永井民部が今村の松原広長を安戸坂にて討つ『尾張志』ほか
定光寺本堂（定光寺町）国 織田信長制札（窯町） 菱野郷倉『大般若経』[一部鎌倉] 瀬戸窯跡【瓶子窯跡】（嵐山町）国 源敬公廟（定光寺町）国 笠原村・両半田川村国境争論絵図（東松山町） 石造地藏菩薩立像（片草町）	戦国 安土・桃山	16世紀	大窯 製品	1529（享禄 2）頃 松平清康がシナ野郷を松平信定に与える『三河物語』 1558（永禄元）織田信長が科野城の松平を攻める『松平記』 1560（永禄 3）織田信長が今川義元を討ち取る（桶狭間の戦い）
		17世紀	連房 製品	
陶質十六羅漢塑像（寺本町） 六角陶碑（藤四郎町） 旧山繁商店（仲切町・深川町）国登 瀬戸永泉教会礼拝堂建造（杉塚町）国登 陶製梵鐘（深川町）	江戸	18世紀		
	近代 (明治) (大正) (昭和)	19世紀		1890（明治 23）信州飯田街道が白岩・片草集落側へ移動し「中馬街道」と呼ばれるようになる 1907（明治 40）上品野村創陶碑（上品野町）建設
		20世紀		2019（令和元）信州飯田街道（品野地区 3 か所）が文化庁歴史の道百選に追加選定 2020（令和 2）「郷土の歴史と文化を広める会」発足

1 名古屋と信州を結ぶ諸街道



江戸時代の中山道・木曾街道・下街道（善光寺街道）ほかの街道
（桜井 1997 の「地域概念図」に一部加筆）

下街道における通行制限の変遷

（桜井 1997 の同名図に一部加筆）

項目	1600		1700		1800	
	禁止令					
商人荷物	1624 ↓ 寛永元	1651 ↓ 慶安4	1689 ↓ 元禄2	1795-1796 ↓ 寛政8	1822	1867 ↓ 1863 明治元
手馬(中馬)輸送						
尾張藩士						
山村・千村氏 他藩の武士						
庶民の旅						



中馬追と中馬（長野県平谷村）
（長野県教委 1959 より）

参考：桜井芳昭1997『尾張の街道と村』第一法規出版(株)東海支社
長野県教育委員会1959『長野県民俗資料調査報告 中馬制の記録』
鶴里町誌編纂委員会2009『鶴里町誌第三卷(通史編上)』
山なみ遥か歴史の道—中馬の里—

瀬戸市の今村地区から品野地区を貫く信州飯田街道は、名古屋から岐阜・長野へ向かう街道の一つで、中馬街道とも呼ばれます。「中馬」は、信州ほか農民の農閑期余業として始められた荷馬輸送のことで、語源は荷主と荷受人との間を連絡する中通りする馬(中継馬)の略とも、賃馬・手馬の略とも言われます。信州や東濃からは陶磁器・煙草・木地椀・紙など、名古屋や海浜部からは塩・茶・魚、醤油などが運ばれました。

江戸時代、名古屋と信州を結ぶ正式な街道は宿場制度の適用された中山道・木曽街道でした。その脇往還として今の春日井・多治見を抜ける下街道があり、さらにその脇往還として品野地区を通る信州飯田街道は一般庶民に利用され、瀬戸街道・明知街道とも呼ばれていました。

明治23(1890)年には、信州飯田街道が馬車等の往来のためルートが付け替えられ、「中馬街道」の名もそのころから用いられるようになりました。山間部を抜ける信州飯田街道の中でも、顕著な急坂の一つとして馬子唄にも謡われたのは坂瀬坂でした。坂瀬坂から国境・東濃にかけて本格的な山道に入るため、その手前の上品野などには、馬宿などができ、小規模な宿場町となりました。

坂瀬坂をはじめとして現在も良好に旧街道の面影が残る一部区間は、令和元年に文化庁の歴史の道百選に追加選定されています。瀬戸市品野地区の3か所の選定区間をはじめ、信州飯田街道(中馬街道)の昔からのルートが遺っているため、令和2年度に品野地区の有志が中心となって「郷土の歴史と文化を広める会」を発足し、道しるべ看板や説明看板の設置、街道を紹介するイベント等を行っています。

②上品野 桑下城跡



桑下城跡の縄張りとは発掘調査で検出された遺構群

画像：愛知県埋蔵文化財センター提供

2 信州飯田街道 ①下品野

文化庁 歴史の道百選



信州飯田街道（中野）

この街道は、江戸時代には中山道や下街道（右の地図参照）の脇往還（脇街道）として東濃地区と瀬戸・名古屋とを結び、信州や東濃から陶磁器・煙草・木地・紙など、名古屋や海浜部からは塩・茶・魚・醤油などが運ばれた。瀬戸や美濃の陶磁器もこの街道を利用して流通している。この街道沿いでも、上

品野や下品野が盛んにお呼ばれていからの街道
①下品野2
庁の「歴史

①下品野（0.48 km）は、西は名古屋・瀬戸、東は赤津、北は美濃方面への交通の要衝で、奈良時代以前から集落が形成された。江戸時代には街道筋を中心に町場となり、近代には津島神社付近に火の見櫓があり、街道沿いに酒蔵や料理屋、芸者置屋などがみられた。

街道の南東側丘陵の北向き斜面には連房式登窯が数基みられ、擂鉢をはじめ植木鉢や土瓶などの大形の陶器類が多く生産された。街道筋にも陶磁器問屋や小売店が立ち並んだ。毎年7月第3土曜日には、品野祇園祭として神武天皇像を戴いた山車がまちなかを練り歩く。



① 品野祇園祭 山車巡行

現在は、品野陶磁器センターを基点に、津島神社に向かい、大蔵橋付近まで山車を巡行する（画像は全宝寺から信州飯田街道を下りるところ）



② 街道筋の街並み（南から）



信州飯田街道（—歴史の道百選 選定区間、—選定外区



◀ さらに詳しく知りたい方はこちらへ
If you want to know "Shinobu Gion" historic highway, scan this QR code.

中馬街道) ① 下品野

下品野では馬継地となり、いわゆる「中馬」
こなわれ、明治期以降「中馬街道」とも
た。中でも、瀬戸市品野地区には、古く
の景観が残されている区間が認められ、
上品野③坂瀬坂～雨沢峠の3か所が文化
の道百選」に選定されている。

選定年月日：
令和元年 10 月 29 日

区間距離：
① 0.48km



信州飯田街道（中馬街道）と中山道・下街道



④ 五丁目観音堂に集められた街道筋の石造物群
(毎年彩色される)



⑤ 旧角甚前の道標（東から）
(「北 善光寺道」「西 せとなごや道」
「南 かまや道」「東 あかづ道」と記載)



⑥ 寛政 7(1795) 年の常夜燈と津島神社
(南東から)

間) 郷土の歴史と文化を広める会 道しるべ看板 瀬戸市教育委員会 (連絡先 瀬戸市文化課 0561-84-1740)

3 信州飯田街道 ②上品野

文化庁 歴史の道百選



信州飯田街道 (中馬街道)

この街道は、江戸時代には中山道や下街道 (右の地図参照) の脇往還 (脇街道) として東濃地区と瀬戸・名古屋とを結び、信州や東濃から陶磁器・煙草・木地碗・紙など、名古屋や海浜部からは塩・茶・魚・醤油などが運ばれた。瀬戸や美濃の陶磁器もこの街道を利用して流通している。この街道沿いでも、上

品野や下品野が盛んにお呼ばれていからの街道
①下品野2
庁の「歴史



① 稲荷神社 鳥居・拝殿 (南西から)
右側北向き斜面には近代に磁器を焼成した稲荷神社窯跡が所在



② 街道筋の街並み (南西から)



③ 祥雲寺本堂・庫裡 (西から)
天文10(1541)年松平信定の創建と伝えられ、信定や家老の長江民部の位牌を安置



④ 菩提寺仁王門 阿形像



信州飯田街道 (— 歴史の道百選 選定区間、 — 選定外区間 (破線部分は通行できません))



◀さらに詳しく知りたい方はこちらへ
If you want to know "Shinko Bida" historic highway, scan this QR code.

中馬街道) ②上品野

上品野では馬継地となり、いわゆる「中馬」
となわれ、明治期以降「中馬街道」とも
なされた。中でも、瀬戸市品野地区には、古く
の景観が残されている区間が認められ、
上品野③坂瀬坂～雨沢峠の3か所が文化
の道百選」に選定されている。

選定年月日：
令和元年10月29日

区間距離：
② 0.26km



信州飯田街道(中馬街道)と中山道・下街道



②上品野(0.26km)は、戦国時代に桑下城跡・品
野城跡が街道を挟むように築かれ、尾張の織田氏と三
河の松平氏との国境攻防をめぐる最前線であった。

街道沿いの祥雲寺には、品野城主であった松平内
膳正家重や家老とされる永井(長江)民部の位牌が
伝えられ、上品野村の氏神である稲荷神社も、街道や
桑下城跡を見わたせる高台に鎮座する。江戸時代の村
絵図には、稲荷神社前の街道が北へ折れ曲がって下り
の坂道となる地点に高札場が描かれていた。

上品野の町場は、江戸時代以降には、中馬の中継地
として賑わい、小規模ながら荷継ぎ問屋、陶磁器問屋
が軒を並べる町場を形成していた。近代には、街道筋
に馬宿を兼ねた窯屋もあり、大八車にやきものを満載
して名古屋方面へ販売に行ったという。



⑤ 桑下城跡の発掘調査(2004・7～9年度 X 北西から)
(現在、発掘調査は終了しています) 画像: 愛知県埋蔵文化財センター提供

※ 地図中の①～⑤は、各画像の撮影場所を示す。

郷土の歴史と文化を広める会 道しるべ看板

瀬戸市教育委員会(連絡先 瀬戸市文化課 0561-84-1740)

4 信州飯田街道 ③坂瀬坂～雨沢峠

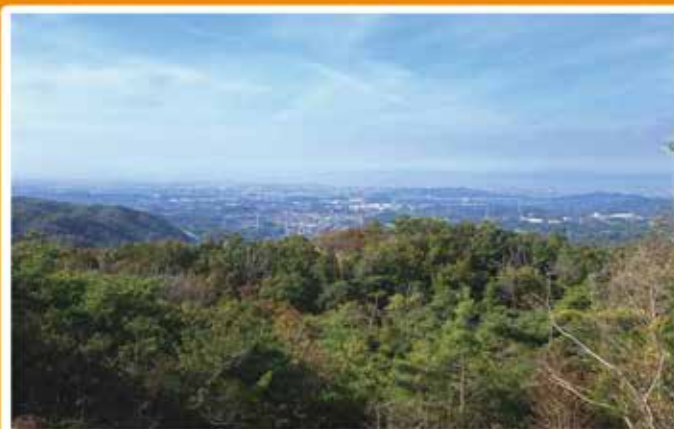
文化庁 歴史の道百選

信州飯田街道 (中馬街道)

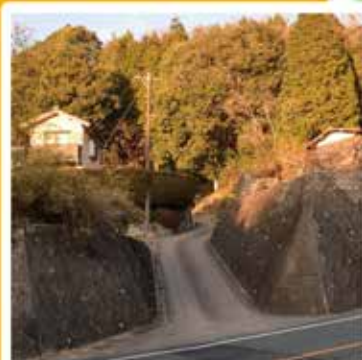


この街道は、江戸時代には中山道や下街道 (右の地図参照) の脇往還 (脇街道) として東濃地区と瀬戸・名古屋とを結び、信州や東濃から陶磁器・煙草・木地・紙など、名古屋や海浜部からは塩・茶・魚・醤油などが運ばれた。瀬戸や美濃の陶磁器もこの街道を利用して流通している。この街道沿いでも、上

品野や下品野が盛んにあり、呼ばれていた。①下品野から、文化庁の「歴史



③ 街道尾根道から品野盆地・濃尾平野を望む (東から)



① 国道からの入口 (坂瀬坂) (南から)



※ 地図中の①～③は、各画像の撮影場所を示す。

信州飯田街道 (— 歴史の道百選 選定区間、 — 選定外区間 (破線部分は通行できません))

道) ③坂瀬坂～雨沢峠

品野では馬糞地となり、いわゆる「中馬」
 となわれ、明治期以降「中馬街道」とも
 いた。中でも、瀬戸市品野地区には、古く
 道の景観が残されている区間が認められ、
 上品野③坂瀬坂～雨沢峠の3か所が文化
 景観の道百選」に選定されている。

選定年月日：
 令和元年 10 月 29 日

区間距離：
 ③ 2.8km



信州飯田街道（中馬街道）と中山道・下街道



② 尾根筋の街道景観（初夏）
 （西から）



④ 尾根筋の街道景観（晩秋）
 （西から）



⑤ 片草薬師堂の石造物群
 （瀬戸市指定文化財）

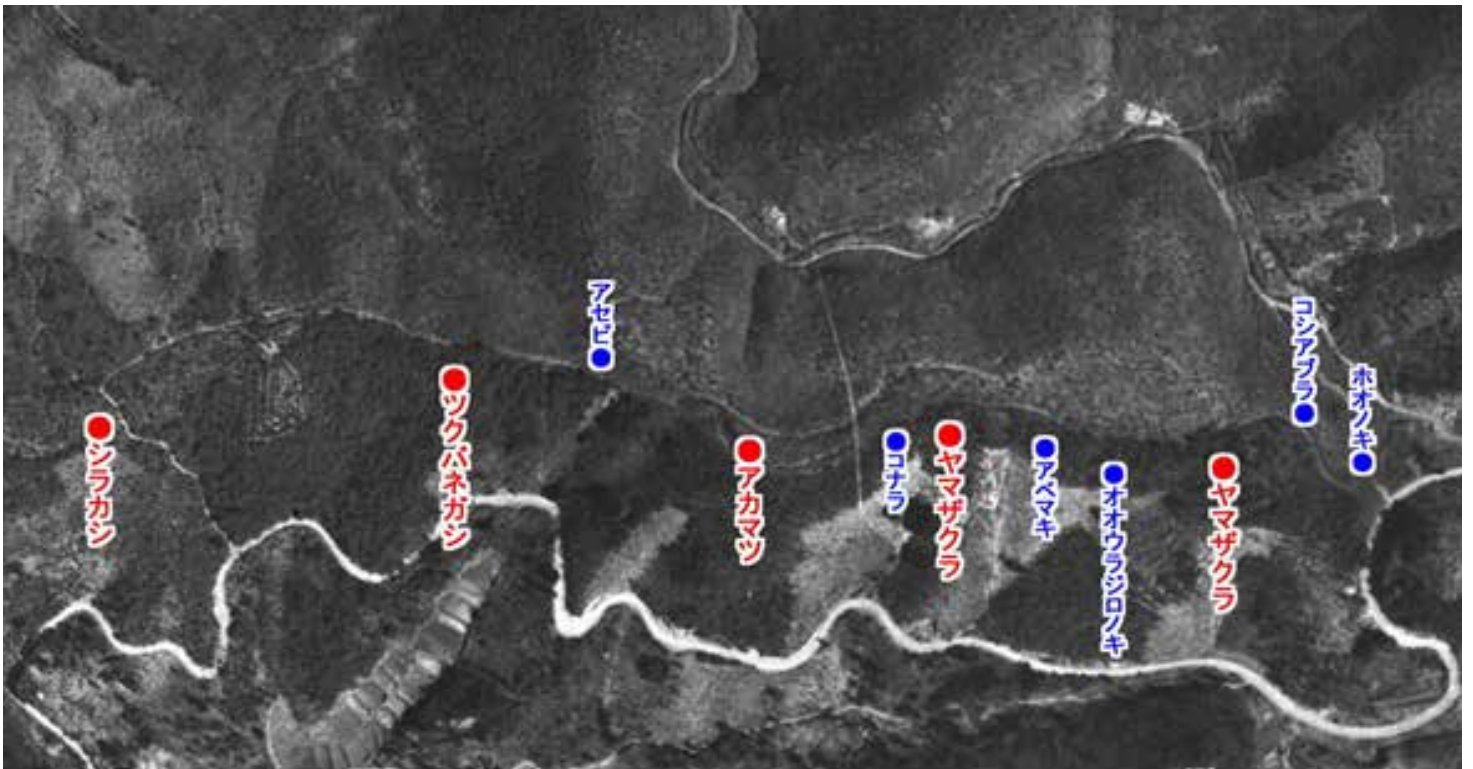
③坂瀬坂～雨沢峠（2.8km）は、愛知県内の信州飯田街道の中でも江戸時代以降の地道の状況が最も遺っている区間である。

この区間の西端は、街道随一の急坂の難所「坂瀬坂」が存在し（比高差80m）、馬子唄にも「美濃の大馬戸、尾張の坂瀬、碓井峠がなければ」と唄われた。

この範囲の街道筋では集落はみられず、山道が続く状況であるが、かつては茶店等があったと伝えられる。ところどころに馬頭観音等の石造物が祀られていたとみられるが、現在はふもとの白岩町や片草町の集落内に移設され祀られている例が多い。

5 信州飯田街道周辺の樹木

瀬戸市北東部はかつて主に薪炭林として利用され、乱伐が繰り返され、はげ山が広がっていました。昭和24年米軍によって撮影された航空写真には、信州飯田街道が通る丘陵の大半が、樹木のない、なだらかな草原やササ原として写っています。戦後、薪炭から石炭、石油、ガスなどに需要が移る燃料革命が進み、山林も乱伐を免れ、徐々に植生が回復しました。一般に暖温帯林では植生の回復はアカマツから始まり、アカマツの衰退に伴ってコナラ・アベマキなどの落葉広葉樹へ遷移し、さらにシイ・カシなどの常緑広葉樹に進み、安定を迎えます。信州飯田街道付近にはシイは分布しませんが、同様の経緯を辿ってきました。しかし現在は太陽光発電プラントの建設により樹林が大きく損なわれ、はげ山に逆戻りしています。「せと歴」では街道の両脇に残された樹林帯から現地の特徴を読み取ります。



ヤマザクラ *Cerasus jamasakura*

その名の通り山に自生するサクラで、バラ科サクラ属に分類されます。瀬戸市内の山林に自生するサクラ属はエドヒガン、カスミザクラ、ヤマザクラの三種ですが、このうちもっとも数が多いのはヤマザクラです。瀬戸の山を春に遠望すると点々とピンク色の樹冠が出現していますが、その大半はヤマザクラです。栽培種のソメイヨシノより長命で、寿命が100年を超えて大木になります。筆者が調査した結果では胸高幹囲180cm以上のヤマザクラは瀬戸市内で333本を数えます。樹幹は凹凸が少なく、まっすぐに伸びる傾向があります。開化と同時に赤みを帯びた若葉を展開するのは、花が散った後に若葉を広げるソメイヨシノとの大きな違いです。



アカマツ *Pinus densiflora*

海岸付近に多いクロマツの樹皮が黒褐色であるのに対して、内陸部に多く、樹皮が赤茶色であることからアカマツと呼ばれます。マツ科マツ属の常緑針葉樹です。マツタケや松露、コツブタケなどと共生関係を築くことによって痩せた土地でも育つため、はげ山が広がった江戸時代の瀬戸ではもっともふつうに見られる樹木でした。明治以降、マツノマダラカミキリが北米原産のマツノザイセンチュウ(松の材線虫)をアカマツに感染させる松くい虫の被害が全国的に広がり、大規模な松枯れを引き起こしています。ここでは2020年から始まった太陽光発電所の建設により、環境が激変した尾根筋のマツは600mの区間で120本中104本が枯死しました。今後、どのような保全策が必要か、検討する必要があります。



ツクバネガシ *Quercus sessilifolia*

枝先の葉が輪生状で、羽根つきの羽根のように見えることからツクバネガシと呼ばれます。葉は常緑で硬く、鋸歯が先端にのみあって全縁に近く、縁が内側に巻いています。ブナ科コナラ属の常緑広葉樹です。高木に育ちドングリをつけます。瀬戸市の中心部付近では標高が低く、温暖な環境のためシイ・カシ林が広がりつつありますが、信州飯田街道付近は標高が高く、シイはわずかです。常緑広葉樹として中心的位置を占めるのがツクバネガシとシラカシ、ウラジロガシです。とくにツクバネガシはやや内陸部に分布が限られ、中津川市中川神社など東濃地方の社叢林では優占種です。瀬戸市内で胸高幹囲180cm以上のものが73本あり、信州飯田街道には大木こそありませんが、壮齢の成木が数本あり、今後大きく成長するものと思われます。



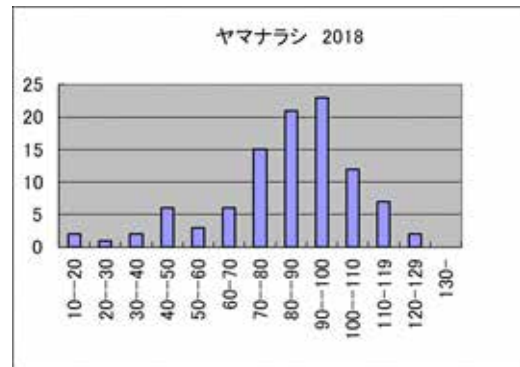
シラカシ *Quercus myrsinifolia*

ツクバネガシと同じくブナ科コナラ属に分類される常緑広葉樹で、ヤマザクラと同じく樹幹がまっすぐに伸び、凹凸が少ないのが特徴です。その材が白いため白樫とよばれます。葉脈は中肋から等間隔に並行して伸び、鋸歯も整然と全体にわたってそろっています。ドングリをつけます。乾燥した土地ではなく、地下に水脈を伴う山腹に多く、瀬戸市内で胸高幹囲180cm以上のものは36本で、多くは品野地区にあります。かつて定光寺応夢山山中に胸高幹囲600cm以上の巨木がありましたが、すでに倒伏、枯死しています。



ヤマナラシ *Populus tremula* var. *sieboldii*

ヤナギ科ヤマナラシ属の落葉高木。日本のポプラ。風に葉がはためいて音を発することから「山鳴らし」といわれます。山腹の崩壊跡地などにいち早く侵入して純林を形成します。信州飯田街道と東海自然歩道が交差する付近にも全体で 101 本が自生していますが、太さに偏りがあり、一斉に芽生えたことを示唆しています。寿命はあまり長くない、近時、枯死が相次いでいます。瀬戸市内に分布するものでは胸高幹囲 156cm が最大で、ポプラほどの大木にはなりません。幹の下半分は黒く、中部から枝先に向けて白く変わる特徴があります。



ホオノキ *Magnolia obovate*

モクレン科モクレン属の落葉高木です。春に高い枝先で大輪の花を咲かせ、強い香りは地上にまで漂います。大きな葉でごはんを包んだことから万葉集では「ほほがしわ」と呼ばれていました。現代でも朴葉寿司、朴葉みそなど食品包装に利用されています。材は家具や下駄にも使われます。瀬戸市内では胸高幹囲 180cm 以上のものが 39 本あります。絶滅危惧種として名高いシデコブシは同じモクレン科の仲間です。



オオウラジロノキ *Malus tschonoskii*

バラ科リンゴ属の落葉高木です。葉裏に白い毛が密生していることからそう呼ばれます。春に葉を展開し、サクラに似た五弁の白い花を咲かせます。瀬戸市内の山林では点々と自生していて、秋に大量の果実を落とします。果実は小型のナシに似ていますが、味は渋く食用に向きません。



アベマキ *Quercus variabilis*

ブナ科コナラ属の落葉高木です。大きな丸いドングリと鱗片が長い殻斗が目立ちます。コルク質が発達した樹皮を「あばた」に見立て、あばたの薪という意味でアベマキと呼ばれるとの説があります。葉はクリやクヌギの葉に似ていますが、葉裏に白い毛が密生しているため容易に区別できます。瀬戸市内では胸高幹囲 180cm 以上の大木が 118 本あります。定光寺応夢山などに巨木が集中していますが、幹が途中で切断され、そこからひこばえが数本伸びている樹形から、薪炭の台木として利用していた可能性があります。信州飯田街道付近では大木は少なく、低温はやや苦手ようです。



コナラ *Quercus serrata*

ブナ科コナラ属の落葉広葉樹です。瀬戸市内ではもっとも多くみられる樹種で、同属のミズナラが大きな葉をつけるのに対して葉が小さいことから小檜とよばれます。2010年ごろからカシノナガキクイムシによるナラ枯れで大木は被害をうけました。坂瀬ではキクイムシによって穴だらけになった株を見ることができます。マツを枯らした松くい虫と同じく、同一の樹種が密に自生していたことが被害を大きくしました。



コシアブラ *Chengiopanax sciadophylloides*

ウコギ科コシアブラ属の落葉高木です。葉は掌状複葉で1枚の葉は複数の羽片が一本の葉柄から放射状に出ています。芽吹いたばかりの若葉はタラノキと同じく山菜として好まれます。新井白石は落葉の葉脈だけが残ったものをフィルターにして油を濾しとった利用法からコシアブラと呼ばれるとしました。樹液を金漆(ごんぜつ)の工芸用に用いたという説もあり、その場合は「越の国の油」と解釈するようです。技法は平安時代までで失われています。



アセビ *Pieris japonica subsp. japonica*

ツツジ科アセビ属の常緑低木です。花は釣り鐘型で晩冬から早春に咲きます。全体が有毒で、葉や花を食べた動物が中毒し、足を引きずって(あしびき)苦しむさまが酔っているように見えたことから漢字では「馬酔木」と書かれます。この道を通った馬がこの木を食べて中毒することがあったのでしょうか。信州飯田街道付近では大きく育った株が随所に見られ、ピンク色を帯びた品種アケボノアセビもあります。



ヤシャブシ *Alnus firma*

カバノキ科ハンノキ属の落葉高木。根に根粒菌を共生させています。はげ山でも育つため、各地で緑化のため植栽されました。坂瀬付近で見られる株も多くはないものの、植えられたものと考えられます。フシは「五倍子」の代用原料としてタンニンを採取したことから。花粉症の方は要注意。



中馬馬子唄

①馬子は二十六 男のさかり

根羽や 平屋の 若集だよ

②吉良見 吹越 猿爪越えて

谷の鶯 笹渡りよ

③恵那が曇れば 柿野は晴れる

曾木のあたりは 薄霞よ

④三国山から 御嶽みれば

今朝もほんのり淡化粧よ

⑤美濃の大馬戸 尾張の坂瀬

碓井峠が なけなよいよ

⑥新居松原 品野の縄手

坂瀬の大坂 なけなよいよ

⑦小幡過ぎれば 大曾根近い

うれしかろぞえ大須の娘

①・②は、昭和 54 年に NHK FM ラジオ「隠れた民謡」で放送され、それらがきっかけとなり土岐市柿野地区の有志が「中馬馬子唄保存会」が昭和 55 年に発足。以後中馬馬子唄を唄い継ぎ、保存と継承に尽力している。なお、⑤⑥は、瀬戸地域で語り伝えられたとされる。